



緩徐進行1型糖尿病 について

問 稲城市保健センター
☎ 378-3421

たいと思います。
診断としては、血中尿中CPRや抗GAD抗体を測定し評価することがまず第一であり、また抗GAD抗体が陰性でも経時的にCPRが低下していくものはこの型と考えられます。

平成19年度国民健康、栄養調査によれば、本邦の糖尿病患者数は890万人、予備軍を含めると2210万人とのことであり、平成9年度糖尿病実態調査の結果（糖尿病患者数690万人、予備軍を含めて1370万人）と比較すると著明な増加を示しています。
糖尿病の病型には大別して2つの病型があり、1型糖尿病がインスリン産生細胞（膵B細胞）の破壊が生じインスリンが欠乏することを成因とし、2型糖尿病は生活習慣の乱れからインスリン抵抗性が亢進し遺伝的体質が重なり発症すると言われています。

1型糖尿病の中には膵B細胞の破壊が緩徐進行で成人以降に発見される型があります。これを「緩徐進行1型糖尿病」と呼んでいます。最近この「緩徐進行型」が指摘される症例が増加しており、その診断と治療について説明し

治療としては、まず第一に厳格な食事療法の厳守が挙げられます。次に運動療法ですが、有酸素運動（ウォーキング）1.5～2時間／日、筋抵抗運動（膝屈伸など）や筋調整運動（ストレッチング）などを組み合わせたものが理想ですがウォーキングのみでも有用です。次に薬物療法ですが、一般にSU剤を用いると二次無効が早期に生じるため、インスリンを早期から導入することが推奨されます。また「緩徐進行型」が発症するのが2型同様にインスリン抵抗性の増大にあるときは、インスリン抵抗性を改善する運動療法を強化することや、膵B細胞の破壊を遅らせ、膵B細胞の保護作用のあるインクレチン製剤を投与することも今後は検討課題となるでしょう。

稲城市医師会 原田 充由